

第6学年 走り高跳び

1 単元の目標と評価規準

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
目標	走り高跳びの行い方を理解するとともに、試技の回数やバーの高さの決め方などのルールを決めて競争したり、自己の記録の伸びや目標とする記録の達成を目指したりしながら、リズミカルな助走から力強く踏み切って跳ぶことができるようにする。	自己の能力に適した課題の解決の仕方、競争や記録への挑戦の仕方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。	走り高跳びに積極的に取り組み、勝敗を受け入れたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりすることができるようにする。
評価規準	<p>知識・技能</p> <p>①走り高跳びの行い方を言ったり書いたりしている。</p> <p>②5歩～7歩のリズミカルな助走から強く踏み切って高く跳ぶことができる。</p>	<p>思考・判断・表現</p> <p>①自己の能力に適した課題の解決の仕方および競争や記録への挑戦の仕方を選んでいる。</p> <p>②自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。</p>	<p>主体的に学習に取り組む態度</p> <p>①走り高跳びに積極的に取り組もうとしている。</p> <p>②勝敗を受け入れようとしている。</p> <p>③仲間の考えや取組を認めようとしている。</p> <p>④場や用具の安全に気を配っている。</p>

2 単元の指導と評価の計画

時間	1 (導入)	2 (習得)	3 (習得)	4 (活用)	5 (活用)	6 (まとめ)
	単元のめあて「目標記録の高さに挑戦し、チーム対抗で得点競争をしよう」					
0	<p>挨拶</p> <p>オリエンテーション ・単元の流れ ・場やルールの説明 ・準備運動 ・活動の説明 ・目標記録を設定</p> <p>3歩～5歩の助走から高跳びをしてみよう。</p>	<p>健康観察、用具・場の準備</p> <p>挨拶、準備運動、補助運動、めあての確認</p> <p>活動Ⅰ 5歩～7歩の助走で踏み切って跳ぶ</p> <p>チェック タイム ※タブレット</p> <p>活動Ⅱ チャレンジ タイム ※タブレット</p> <p>活動Ⅰ 課題を見付ける、決める</p> <p>活動Ⅱ 課題の解決に向けて練習をする ※タブレット</p> <p>活動Ⅰ 課題を伝え合う</p> <p>活動Ⅱ 課題の解決に向けて練習をしたり、伝え合ったりする ※タブレット</p> <p>活動Ⅰ・Ⅱ ・チームで得点を付ける ・動きについてアドバイスし合う ※タブレット</p> <p>走り高跳びグループ対抗戦</p> <p>「得点を付け、チーム対抗で高得点を目指そう！」</p>				
45	整理運動、振り返り、指導者のまとめ、健康観察、挨拶、片付け					
知・技		① ワークシート			② 観察・ICT	
思・判・表			① ワークシート	② 観察・ワ-ク		
態度	④ 観察			③ 観察	① 観察	② 観察

3 本時案【導入場面】(1時間目/6時間中)

(1) 本時のねらい

- ・自分の目標記録を設定し、高跳びの場づくりや用具の安全に気を配ることができるようにする。

本時の学習評価

- ・場や用具の安全に気を配っている。(主体的に学習に取り組む態度)

(3) 学習過程

時間	○学習活動 ・指導上の留意点	評価規準及び 評価方法
はじめ 5分	<p>1 集合、挨拶、健康観察 2 本時のめあてと評価項目を確認する。</p> <p>めあて 目標記録を設定し、場づくりや用具の安全に気を付けて高跳びをやってみよう。</p> <p>評価 場や用具の安全に気を配っている。(主体的に学習に取り組む態度)</p>	
なか 30分	<p>3 オリエンテーション ○単元の学習の進め方を知る。※単元の指導と評価の計画を参照</p> <p>単元のめあて 「目標記録の高さに挑戦し、チーム対抗走り高跳びをしよう。」</p> <p>○単元前半は、練習や課題見つけ、解決に向けて取り組み、単元後半は、自己の目標記録をめざして挑戦していくことを伝える。 ○場やルールの説明をし、場づくりを行う。 ○準備運動及び主運動につながる動きづくりを行う。 ・いろいろな走り方で10m走(スキップ、大股走など) ・3歩助走から高くジャンプ(バスケットゴールネットへのタッチ) ・「イチ」「ニッ」「サン」のリズムでのミニハードルの跳び越え ○身長と走力をもとにして、目標記録を設定する。 (例)身長150cm, 50m走9.2秒の場合 ① $0.5 \times 150 \text{ cm} = 75 \dots \text{㊦}$ ② $10 \times 9.2 \text{ 秒} = 92 \dots \text{㊱}$ ③ $120 + \text{㊦} - \text{㊱}$ $120 + 75 - 92 = 103 \text{ cm}$ (目標記録) 103 cm</p> <p>4 活動 3歩～5歩の助走から高跳びをする。 ○高跳びにおける安全に気をつけることを伝える。 ※1「安全面で気をつけること」参照 ○高跳びの既習事項を確認し、いろいろな方向から高跳びをさせる。 ・安全に関する内容を中心に声かけをしていく。 【声かけの例】※「高く跳べたね」等の技能面ではない声かけ ・周りをよく確かめてから、高跳びに挑戦しているね。 ・マットを整えてくれて、ありがとう。 ・安全に気をつけるよう、友だちに声かけしていいね。</p>	<p>おおむね満足(観察) 場や用具の安全に気を配っている。</p> <p>十分満足 場や用具の安全について気を配り、友だちに伝えたり、動いたりしている。</p> <p>努力を要する児童への手立て 安全に高跳びを行うためのルールを再確認させる。</p>
まとめ 10分	<p>6 本時をふり返り、次時への見通しをもつ。 ○走り高跳びの学習の見通しや安全面に気を配ることができたか等を振り返る。 ・「走り高跳びの学習の見通しを持つことができましたか。」「高跳びをするときに場や用具の安全に気を配ることができましたか。」等について問い掛け、拳手させる。 ・後で振り返ったことをワークシート(※2)に記入させる。</p> <p>7 整理運動、場や用具の片付け、健康観察、挨拶 ・腿、膝、ふくらはぎ、足首など、運動で使った部位をほぐさせる。 ・場の片付けをさせる。 ・健康観察で、ケガや体調不良がないかを確認する。</p>	

※1 安全面で気を付けること

【走り高跳びの試技に関すること】

- 前の試技者が、着地地点のマットにいるかよく確かめてから始めること。
- 無理のない高さで取り組むこと。
- 必ず両足で着地すること。その際、ひざを使ってやわらかく着地するようにする。

【場の安全に関すること】

- 着地地点のマットなどがずれたら、試技を止め、初期の位置に戻すこと。
- ゴムバーで安全であるが、支柱が倒れる可能性を考え、それぞれの支柱をグループ内で分担して必ず両手で持つこと。
- 場を移動することがある際には、接触の危険性があることから、場を横断するのではなく、体育館の端などを通るようにすること。
- タブレット端末などを使って試技のようすを撮影するときは、マットから少し離れた位置で行うこと

※2 1時間目のワークシートの項目の例

めあて 目標記録を設定し、場づくりや用具の安全に気を付けて
高跳びをやってみよう。

自分の身長	50m走の記録
cm	秒

【計算式】

① $0.5 \times \text{身長}$ (または、 $\text{身長} \div 2$) (例) $0.5 \times 150 \text{ cm} = 75 \dots \text{㊦}$

② $10 \times 50\text{m走の記録}$ (例) $10 \times 9.2 \text{ 秒} = 92 \dots \text{㊦}$

③ $120 + \text{㊦} - \text{㊦}$ (例) $120 + 75 - 92 = 103 \leftarrow \text{あなたの目標記録}$

【本時の感想を書きましょう】

3 本時案【習得場面】(2時間目/6時間中)

(1) 本時のねらい

- ・走り高跳びの行い方や記録への挑戦の仕方を理解できるようにする。

(2) 本時の学習評価

- ・走り高跳びの行い方を言ったり書いたりしている。(知識・技能)

(3) 学習過程

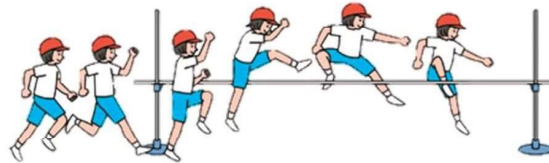
時間	○学習活動 ・指導上の留意点	評価規準及び 評価方法
はじめ 10分	1 集合、挨拶、健康観察、場や用具の準備 2 本時のめあてと評価項目の確認	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">めあて 走り高跳びの行い方や記録への挑戦の仕方を理解し、やってみよう。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">評 価 走り高跳びの行い方を言ったり書いたりしている。(知識・技能)</div>	
10分	<ul style="list-style-type: none"> ・走り高跳びの行い方と計測の役割分担(※1)と走り高跳びのポイント(※2)を伝え、本時で特に気を付けたいポイントを考えさせる。 ・学習カードを配り、本時で気を付けたいポイントと目標の記録を記入させる。 3 準備運動及び主運動につながる運動 <ul style="list-style-type: none"> ・準備運動で肩、腕、手首、腿、膝、ふくらはぎ、足首などをほぐさせる。 ・主運動につながる動きづくりを扱う。 <ul style="list-style-type: none"> ①いろいろな走り方で10m走(スキップ、大股走など) ②3歩助走から高くジャンプ(バスケットゴールネットへのタッチ) ③「イチ」「ニッ」「サン」のリズムでのミニハードルの跳び越え 	おおむね満足(ワークシート) 走り高跳びの行い方を言ったり書いたりしている。 十分満足 走り高跳びの行い方を詳しく言ったり書いたりしている。
なか 25分	4 活動Ⅰ 5歩～7歩の助走からの走り高跳び ○チームで役割を交代しながら、順番に短い助走の走り高跳びに取り組む。 ・全員が跳ぶことができる高さで、チーム全員に助走リズムを声に出させながら、助走のリズムをつかませる。 ・5歩助走 … 「イチ」「ニー」「イチ」「ニッ」「サン」 → 最初の2歩は大きく弾むように少し大股で、最後の3歩は少しリズムを速くさせる。 ・慣れてきたら、7歩助走 … 「イチ」「ニー」「イチ」「ニー」「イチ」「ニッ」「サン」のリズムで跳ばせる。 ・自分に合った助走開始の位置を見付けることができれば、テープで床に印をつけさせる。 ・最後の1歩は足の裏全体で力強く踏み切り、振り上げ足の膝を伸ばしながら、高く上げさせる。 【チェックタイム】 ・タブレットで撮影し、チームで互いの助走のリズムや跳び越し方のよい点や改善点を互いに伝えさせる。 5 活動Ⅱ チャレンジタイム ○走り高跳びの行い方に気を付けて、自分の目標の記録に挑戦する。 ・最初に設定した高さをクリアしたら少しずつ高くして挑戦させる。 ・この時間に出した記録の中で、一番高い記録を学習カードに記入させる。 ・5歩助走か、7歩助走か、よい方を選んで挑戦させる。慣れてきたらどちらの助走にも挑戦させる。	努力を要する児童への手立て 個別に関わり、走り高跳びの行い方について対話しながらポイントを確認させる。
まとめ 10分	6 本時の振り返り ○走り高跳びをして、気づいたことや考えたことを学習カードに書く。 ・「走り高跳びの行い方について、理解したことを書きましょう」「バーを引っかけないように跳ぶために気づいたことや考えたことを書きましょう」と投げかけ、本時のめあてに沿って振り返りができるようにする。 ・数名に振り返りを発表させ、全体で共有する。 7 整理運動、場や用具の片付け、健康観察、挨拶 ・特に、腿、膝、ふくらはぎ、足首など、運動で使った部位をケアできるようにする。 ・全員で場の片付けに取り組ませる。 ・健康観察で、ケガや体調不良がないかを確認する。	

走り高跳びの行い方と計測の役割分担 ※1

- グループ内で役割を交代しながら、全員が試技をしたり、計測をしたりする
- 跳んだ人が引っかけたバーが飛んでこないように、スタンドより手前に立つ
→跳ぶ高さにバーを設定→準備ができれば合図→マットやスタンドがずれたらもとの位置に戻す
- 合図があったら試技を行う → 次の計測者は出発位置で待機する

走り高跳びのポイント ※2

- リズムカルな助走
 - ・5歩:「イチ」「ニー」「イチ・ニッ・サン」
 - ・はじめの2歩は大きく弾むように
- 最後の1歩は足の裏全体で力強く踏み切る
- 腕を振り上げて体を起こす
- 振り上げ足の膝を伸ばしながら高く上げる
- 踏み切り足はバーに当たらないように横に開くように引き上げる
- 振り上げ足から着地する



【引用】(挿絵) スポーツ庁ホームページ
「小学校体育(運動領域)指導の手引き
～楽しく身に付く体育の授業～より

1人1台端末の活用方法(例)

- 端末に学習カードを入れ、その日の走り高跳びの動画を貼り付けたり、記録を記入できるようにする。
- 学習資料と動画を比較することで、自分の動きを確認したり、分析したりすることができるようにする。
- 動画の撮影では、効率よく学習活動を進め、十分な運動量を確保するために、事前に役割分担を決めておく。
- 動画を撮影する際は、どのような動きをどこから撮影するのかを明確にしておく。

【撮影のオススメ位置】

試技者のスタート位置から着地地点を一直線上に結んだ延長上。試技者と向かい合う位置から撮影をする。助走から踏み切り、空中動作、着地までの全てを動画に収めることができる。

カード(例)

- 今日、気をつけたいポイントを書きましょう。
 - 今日の目標記録
() cm
 - 今日の記録
 - ・5歩助走 () cm
 - ・7歩助走 () cm
 - 走り高跳びの行い方について、理解したことを書きましょう。
 - バーを引っかけないように跳ぶために気づいたことや考えたことを書きましょう。
- ※副読本やワークシート、タブレット端末など子どもたちの実態に合わせて用意します。

3 本時案【活用場面】（5時間目／6時間中）

(1) 本時のねらい

- ・5歩～7歩のリズミカルな助走から踏み切って跳ぶことができるようにする。
- ・走り高跳びに積極的に取り組むことができるようにする。

(2) 本時の学習評価

- ・5歩～7歩のリズミカルな助走から踏み切って跳ぶことができる。(知識・技能)
- ・走り高跳びに積極的に取り組もうとしている。(主体的に学習に取り組む態度)

(3) 学習過程

時間	○学習活動 ・指導上の留意点	評価規準及び 評価方法
はじめ	<p>1 集合、挨拶、健康観察、場や用具の準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・場や用具の準備と片づけの仕方を説明し、全員で準備させる。※1 <p>2 本時のめあてと評価項目の確認をする。</p>	
	<p>めあて 5歩～7歩のリズミカルな助走で、跳べるようになろう。</p> <p>評価 5歩～7歩のリズミカルな助走から踏み切って跳ぶことができる。(知識・技能) 走り高跳びに積極的に取り組もうとしている。(主体的に学習に取り組む態度)</p>	
10分	<p>○学習の決まりを確認させる。※2</p> <p>○本時の学習の進め方を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで教え合いながら、個々の得点・グループの得点を高めていくことを知らせる。 <p>○走り高跳びのポイントとグループで教え合う視点を確認させる。</p> <p style="text-align: right;">※3</p> <p>○準備運動、主運動につながる補助運動をさせる。※4</p>	
なか	<p>3 活動Ⅰ グループごとの練習</p> <p>【グループごとに練習して課題を解決する】※5</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループの仲間に「めあて」を伝え、見てほしいポイントをしっかりと伝え、アドバイスをもらう。 ・4～5グループに分かれ、1つの場を3分間取り組み、時計回りに回る。 ・よい動きは褒め合わせ、楽しく練習させる。 ・タブレットで撮影し、静止画を見ながらアドバイスをさせる。 <p>4 活動Ⅱ 走り高跳びの記録測定（各グループで得点化）※6※7※8</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4～5グループに分かれ、「右側スタート」「左側スタート」を設定し、記録をとる。 ・個の得点を計算後、グループの得点合計を出す。(グループの人数が異なる場合は平均得点を出させる) ・安全を確かめている様子を取り上げて、称賛する。 	<p>おおむね満足 (観察・ICT)</p> <p>5歩～7歩のリズミカルな助走から踏み切って跳ぶことができる。</p> <p>十分満足</p> <p>5歩～7歩のリズミカルな助走から踏み切って振り上げ足や抜き足を高く上げて跳ぶことができる。</p> <p>努力を要する児童への手立て</p> <p>フープや踏切板を置いて、助走のリズムや強く踏み切る感覚をつかませる。</p>
まとめ	<p>5 本時の振り返り</p> <p>○本時のめあてに沿って振り返り、次時への見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・めあてに沿って振り返り、ワークシートに記録させる。また、単元で目指したい記録や自己の目標も記入させる。振り返ったことを、グループ内で交流し、共有させる。 ・めあてに対して良かった児童の姿を紹介し、全体に意識づけ、次時につなげる。 <p>6 整理運動、場や用具の片づけ、健康観察、挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適切な整理運動の行い方について、実際に動いて示しながら説明する。 ・健康観察だけが、体調不良がないかを確認する。 	<p>おおむね満足 (観察)</p> <p>走り高跳びに積極的に取り組もうとしている。</p> <p>十分満足</p> <p>課題の解決のために工夫したり、仲間にアドバイスしたりする等より積極的に取り組もうとしている。</p> <p>努力を要する児童への手立て</p> <p>歩いてタイミングをつかませる等行い方を確かめたり、これまでの頑張りを伝えたりして意欲化を図る。</p>
10分		

※1【場や用具の準備と片付けのきまり】

- ①運動をする場所に危険物がないか確かめ、見つけたら取り除く。
- ②運動に使う用具などは、友だちと一緒に、決まった場所から安全を確かめて運ぶ。
- ③安全に運動ができるように、服装などが整っているか確かめる。

※2【学習のきまり】

- ①用具を正しく使う。
- ②場の安全を確かめる。
- ③友だちと仲良く励まし合う。
- ④友だちの考えを認める。
- ⑤運動の合間の移動は安全を確かめる。

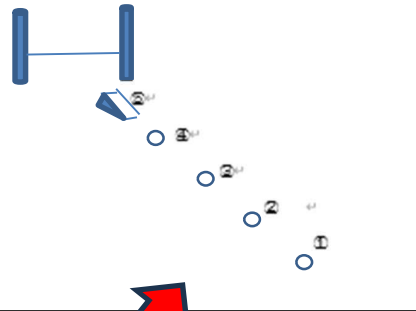
※3【教え合う視点】

- ・「1、2、1、2、3のリズミカルな助走ができていないか」
- ・「振り上げ足と抜き足はしっかり上がっているか」
- ・「踏切の位置は腕を伸ばした位置で踏み切っているか」

※4【主運動につながる補助運動】

- ・いろいろな走り方で10m走（スキップ、大股走など）
- ・3歩助走から高くジャンプ（バスケットゴールネットへのタッチ）
- ・「イチ」「ニッ」「サン」のリズムでのミニハードルの跳び越え

※8【左足で踏み切る場合の場】



※5【グループごとに練習して課題を解決する場の図】

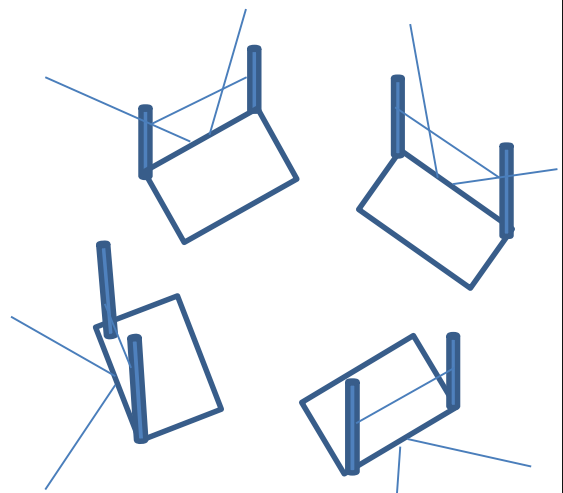
低い高さのゴムひもを3歩で跳ぶ場
振り上げ足を思い切り振り上げる。着地は振り上げ足から。抜き足と交差するように着地。

とび箱をつかって跳び箱をしっかりふむ。足を交差して着地できるようにする。

リズムアップ助走でバーから50cmの踏切位置に印を付ける。
45度の角度で、「イチ、ニー、イチ、ニー、サン」のリズムで助走する。
最後の3歩でリズムを上げる。

ゴムひもをクロスして抜き足を振り上げ足より高く上げて、超えるように跳ぶ。

※6【走り高跳びの記録測定をしてグループごとに得点をつける場の図】



4~5グループに分かれ、アドバイスしながら記録を測定し、グループの得点をつける。

※7 目標設定ができるワークシートの例

☆目標記録を決めよう

身長 cm

50m走の記録 . 秒

走り高跳びの記録を計算しよう。

$$0.5 \times \text{身長 (cm)} = \text{㊦}$$

$$10 \times 50\text{m走の記録 (秒)} = \text{㊧}$$

$$120 + \text{㊦} - \text{㊧} = \text{目標記録}$$

走り高跳びの

目標記録

cm

☆自分の記録—目標記録=目標記録との差

得点	目標記録との差	
10点	+	20cm 以上
9点	+	15cm ~ + 19cm
8点	+	10cm ~ + 14cm
7点	+	5cm ~ + 9cm
6点		0cm ~ + 4cm
5点	-	5cm ~ - 1cm
4点	-	10cm ~ - 6cm
3点	-	15cm ~ - 11cm
2点	-	20cm ~ - 16cm
1点	-	21cm 以下

3 本時案【まとめ場面】(6時間目/6時間中)

(1) 本時のねらい

- ・勝敗を受け入れることができるようにする。

(2) 本時の学習評価

- ・勝敗を受け入れようとしている。(主体的に学習に取り組む態度)

(3) 学習過程

時間	○学習活動 ・指導上の留意点	評価規準及び 評価方法
はじめ 10分	<p>1 集合、挨拶、健康観察、場や用具の準備</p> <p>2 本時のめあてと評価項目の確認</p> <p>めあて 勝敗を受け入れながら、チーム対抗走り高跳びに取り組もう</p> <p>評価 勝敗を受け入れようとしている。(主体的に学習に取り組む態度)</p> <p>○本時の学習の進め方を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで教え合いながら、個々の得点、グループの得点を高めていくことを知らせる。互いの記録を競い合いつつも、これまでの自分やチームの伸びや取組に視点を置き、その勝敗を受け入れることができるように伝える。 ・走り高跳びのポイントとグループで教え合う視点を確認させる。 ・準備運動、主運動につながる補助運動に取り組ませる。 	
なか 25分	<p>3 活動Ⅰ グループ練習</p> <p>○グループで見合う視点を確かめ、課題解決の場に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回の振り返りを基に考えた自分の「めあて」をグループの仲間に伝え、そのことについてアドバイスをもらう。 ・4つの課題解決の場をグループごとにローテーションする。一つの場は2分間とする。 ・よい動きは互いに褒めるように伝え、楽しい雰囲気練習させる。 ・必要に応じて、一人一台端末で撮影してもよいことにする。その際撮影した映像を見ながら気づいたこと等を伝えさせる。 <p>4 活動Ⅱ 走り高跳びグループ対抗戦</p> <p>○走り高跳びグループ対抗戦に取り組み、自分や互いの結果を認め合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで協力し、自分たちの運動の場をつくらせる。 ・スタートが「右側」「左側」のどちらかを確認後、計測、記録する。 ・前時まで計算している自分の目標記録を確認後、個の得点やグループの得点を計算させる。(グループの人数が異なる場合は平均得点を出させる) ・互いの記録や取組を認めたり、自分の記録や勝敗を受け入れたらしている姿を取り上げて、称賛する。 	<p>おおむね満足(観察)</p> <p>勝敗を受け入れようとしている。</p> <p>十分満足</p> <p>勝敗を受け入れるとともに、周りにも受け入れるよう声をかけている。</p> <p>努力を要する児童への手立て</p> <p>勝敗を受け入れる大切さを再度説明したり、自分たちの記録の伸びや積み重ねた取組に目を向けさせたりする。</p>
まとめ 10分	<p>5 本時の振り返り</p> <p>○本時のめあてに沿って振り返り、次時への見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・めあてに沿って振り返り、ワークシートに記録させる。また、単元の振り返りも行い、グループ内で交流し、共有させる。 ・自分が勝敗を受け入れるとともに、周りの友達がよりよく受け入れられるように声をかけている児童の姿を紹介し、全体に意識づけ、次の単元につなげる。 <p>6 整理運動、場や用具の片づけ、健康観察、挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適切な整理運動の行い方について、実際に動いて示しながら説明する。 ・健康観察だけが、体調不良がないかを確認する。 	

6 時間目のワークシートの項目の例

全体のめあて：勝敗を受け入れながら、チーム対抗走り高跳びに取り組もう

自分のめあて：

振り返り

○勝敗を受け入れることができましたか（よくできた できた あまりできなかった）

○「勝敗を受け入れること」についてできたこと、できなかったことを詳しく書きましょう。

○チーム対抗走り高跳びの記録や得点を書きましょう。

自分の目標記録 () cm

今日の自分の記録

	1 回目	2 回目	3 回目	4 回目	5 回目	6 回目	7 回目	8 回目	9 回目
記 録	cm	cm	cm	cm	cm	cm	cm	cm	cm
得 点									

チームの得点 () 点

※各自の今日の一番よい記録を得点にして合計、平均したもの

○本時の感想を書きましょう。

○単元全体の感想を書きましょう。